

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400822		
法人名	特定非営利活動法人長寿会		
事業所名	グループホームひまわり21岱明		
所在地	熊本県玉名市岱明町山下1037番地3		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和8年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1
訪問調査日	令和8年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念のもと、専門職としての技術と知識を学び実践して、常に家族として暮らせる安心安全の場と感じてもらえるホームを目指しています。ケアプランを基本としてケアを行い問題点を共有し、改善の取り組みを速やかに行い、入居者の皆様が安心して暮らせるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4項目の理念は毎日朝礼で唱和し、その日一番の目標を決め、理念を意識したケアに取り組んでいる。理念の1番目には「利用者の尊厳と権利」を掲げ、毎月の職場会議では「虐待・拘束を考える」時間を設けてケアを振り返り、特に言葉かけにおいては、声の大きさ・言葉じりの優しさ・その際の表情等に気を付けるよう努めている。また、入居者の担当者を中心にアセスメント、毎月のモニタリング、3か月ごとの介護計画の見直し・更新を行っており、現状に即したプラン作り・プランに沿った支援に努めている。運営推進会議では、委員に門松づくりの材料調達を依頼したり、消防訓練を消防団・自主消防団と合同実施するなど、委員と協力的な関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人オリエンテーション、法人研修時、毎日の朝礼時に全員で理念の唱和を行い、当日の具体的な目標を示し業務に取り組んでいる	理念は、新人研修・法人研修でその意味するところを説明し、職員への理解を促している。理念は事務室やリビングなど目につきやすい場所に掲示しており、毎日朝礼で唱和するとともに、その日一番の目標を決め、理念を意識したケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進委員さんを橋渡しとして地域の行事に参加させて頂いたり、避難訓練では地区の自治消防団員等の協力を得て交流を図っている	町内会に加入しており、職員は地域の清掃に参加している。回覧板で地域の情報を確認したり、ホームの情報を地域に発信したりしている。地域行事は減少しているが、11月に行われた岱明福祉祭りには貼り絵の作品を出展し、見学にも出かけている。また、避難訓練を地域の消防団・自主消防団と合同で実施したり、門松作りの松・竹・南天などの材料一式を運営推進会議委員さんに調達していただくなど、地域の協力が得られている。毎年、地域の小学校で収穫したさつまいもが届けられる等の交流も継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進委員さんを通して認知症や介護、介護保険の制度の利用方法等についての情報提供をしたり相談を受けたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの現状等の報告を行い貴重な意見や質問を頂いている。又、地域の情報も得ている。議事録はいつでも見て頂けるように玄関横に掲示している	運営推進会議は、2か月ごとに対面で開催しており、入居者・職員の状況や活動についての報告、情報交換・意見交換等を行っている。門松づくりの材料調達や消防訓練の消防団・自主消防団との合同実施など、委員の協力を得て継続されており、協力的な関係が築かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問や困りごとなどの相談にも親身に対応して頂き、事務所運営について安心感を持っている。又、運営推進会議にてホームの状況は市担当者に報告を行っている。今後も協力の関係に努めサービスの質の向上を目指す	市担当者・包括担当者は、毎回運営推進会議に出席してホームの状況を把握している。また、運営上の疑問点等は会議の中や電話で都度問い合わせ、適切に回答を得ており、協力関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者はじめ、職員全員が「利用者様の人権や尊厳を守ることがケアの基本である」ということを常に意識して身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「高齢者虐待と身体拘束」「人権と意思の尊重」など、研修担当者が資料を作成して勉強会を行い、身体拘束をしないケアについて意識の浸透に努めている。また、毎月の職場会議の中で、身体拘束委員会として「虐待・拘束を考える」時間を設け、ホーム内で気づいた不適切と思われるケアを出し合い、適切な介護について話し合っている。スピーチロックや大きな声での声掛け等には、職員がお互いに注意し合える環境づくりをしていきたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の年間研修及び毎月の職場会議の中で高齢者虐待について学ぶ機会を設け、実際の職場での課題を取り上げ、どのように対応していくかを皆で学習している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が率先して学びを深め、機会あるごとに職員へ指導している。又、年間の研修にも取り入れている。利用者、家族と接する場合、事前に管理者から説明や話し合いをしていくようにして困りごとの解決に繋がるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解して頂いている。変更時には速やかに連絡対応して納得して頂いている。ご家族の面会時など情報交換を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回の家族総会の際に意見を頂いている。利用者様には日頃の関わりの中で希望等を聞きご家族の方には、来所持に意見等を出しやすい雰囲気の関係作りを心がけている。貴重な意見をよりよいサービスに役立てている	面会時や家族総会の際に、近況報告をしている。運営に関する家族の意見等が出されることはほとんどない。ホーム行事の際の写真を沢山掲載した機関紙を年3回発行し、家族に送付してホームでの暮らしを伝えている。遠方の家族には毎月手紙で入居者の様子を知らせ、安心に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	トップダウンのみで運営しているのではなく、職場の職員と共に意見を交わし、意欲向上に努めている。	毎月の職場会議で、業務改善や個々のケアについてなど話し合っている。職員の提案等はまずは1週間程度試してみて、うまくいかない場合は再検討するなど、意見を運営に反映させ、より良い介護に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場に足を運び管理者を通し職員の状態把握を行っており、職員の意欲向上を図れるよう、働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体ですべての職員が質を向上させていけるよう研修の機会を設けたり、育成の重要性を認識している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃より職員との交流、又会議の参加、個別に意見を聞いたり互いのサービスの向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と十分な情報交換を行い環境の変化に伴い、様々な影響を理解し、不安なく安心して過ごして頂ける環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に不安や相談事は伺い、出来る限りご希望に添えるようにしている。ご家族の立場に立ち訴えを受け止め常に情報交換を行いながら安心して頂くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集に努めご家族にはサービスの情報交換を行い、その方に応じたサービスが提供出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族として暮らすことを信条にしており、生活を共にして信頼関係を作れる様努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援にはご家族の協力が欠かせないものであることを理解して頂き日頃より状態報告を定期的に行い、ご利用者様にとって望ましい状態を家族と相談したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の進行に伴い馴染みの人や場所への記憶も薄らいでこられている方が多いが面会や地区の行事など外出の機会は積極的に設けるよう努めている。入居者は地元市住民だったこともあり、地域への馴染みも深い。入居後は併設の有料老人ホーム入所者の往来もあり新たな馴染みの関係ともなっている。入居者の重度化に伴い外出や地域との交流も難しかったが出来る範囲での支援を行っている	利用者がステンドグラスの講師をしていた頃の生徒さんが面会に来られることもあるが、ほとんどは家族による面会となっている。家族との外出・外泊等の要望も少なく、馴染みの人や場との関係継続支援の機会は少ないように伺えた。現在は、隣接の有料老人ホーム入居者との行き来があり、新たな馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や日頃の行動を把握、確認をしながら、自席の配置にも配慮している。他者との関わりが苦手な方も孤立されない様に職員が仲介役となり、活動するよう工夫している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や入院された場合にも可能な限りそれまでの生活が継続出来るよう情報を提供している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行で自身の気持ちを表現できる方が少ない為、家族からの聞き取りや、関わりの中で本人の希望を察知しながら支援している現状である	意向の表現が困難な方には、色々話しかけて表情を見ながら意向を推測したり、「Yes, No」で答えられるような問いかけで選択できるよう工夫している。また、パズルは難しそうなのにも、ヒントを与えることで期待を上回る反応があったり、懐メロが好きな人には歌う機会を増やすなどして、新たな気づきを得てできるだけ意向に沿った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限りそれまでの生活が継続でき、その人らしい暮らしができる様にしっかり入居前に関係者から情報収集を行い職員全員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に応じた生活時間を大切に、その方に合った活動を取り入れている。気が付いた事はその都度カンファを行ったり記録に残すことで情報共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め、その職員を中心に介護計画等を作成しているが、全職員が意見や気付きを発信し、都度の変化を早めに察知してケアに活かせるプラン作りをしている	入居者の担当者を中心にアセスメント、毎月のモニタリング、3か月ごとの介護計画の見直し・更新を行っており、ケアマネが確認し、カンファレンスで検討して計画を作成している。ホームで、より安心して生活できるよう、一人ひとりの現状に即したプラン作りを心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の客観的視点だけでなく本人の言動も記録に残し、個々の情報を職員全員が確認できるようにしている。これをもとにプランの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせた対応を心掛けている。法人内外の事業所とも常に情報交換を行い、必要時には速やかに支援できるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進委員、地域の消防団、学校、病院などあらゆる地域の資源を利用している。ご利用者が地域の中で安全で豊かな生活が送れるよう支援している。地域の行事にも出来る限り参加するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の訪問診療及び必要時には往診対応、又日頃より電話連絡などで情報共有が出来ている。施設に看護師もおり連携を取り合っている	入居時に、本人・家族にかかりつけ医の希望を確認し、現在は全員、協力医療機関をかかりつけ医として月1回の訪問診療を受けている。ホームに看護師がおり、かかりつけ医と密に連携が図られている。24時間電話連絡が可能であり、夜間・緊急時にかかりつけ医に連絡して指示を得て対応しており、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察や健康管理は介護職が中心となり行うが、変化や異常が見られる時などは看護師に報告行ない、情報の共有を行っている。又日頃より、看護の視点からの情報の提供や指導がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状態報告および、入院に至るまでの経緯を口頭および文書にて詳しく入院先に情報提供を行っている。場合によっては、退院に向けての情報収集を行うこともあり、退院後はケアプランの提出も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期、重度化についての説明を行い、同意を得るとともにアンケートも実施している。看取り介護が必要となった場合には家族、かかりつけ医、施設で連携を図り、段階的に状態確認を行い、都度ケアの方向性を検討し全職員で支援している。	入居時に、本人・家族に「重度化した場合における指針・終末期ケア対応指針」について説明し、事前調査書で意向を確認している。重度化した際には、改めて説明と意向の確認を行い、本人・家族の意向に沿ってかかりつけ医との連携を密に対応している。看護師を中心に看取り研修を行い、より良いケアができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、全スタッフが対応出来るように研修訓練を継続している。又、応急手当講習会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を昼間、夜間想定で行っている。消防署員立ち合いの元で通報、消火、避難訓練を行っている。合わせて防災袋、備品の点検も行っている。災害については災害マニュアルで学習している	消防訓練は年2回、消防署立会いの下、日中・夜間想定で行っている。地域の消防団・自主消防団の協力を得て実施しており、消火栓の使い方の説明なども受けている。食糧備蓄は3日分程度確保しており、消防訓練時に賞味期限を確認し、入れ替えを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念の第一項目に掲げ、毎日朝礼時に唱和することで、常に意識づけをしている。また職場会議や年間研修計画でも全職員で学ぶ機会を設けている	4項目の理念の1番目に「利用者の尊厳と権利」を掲げ、「高齢者虐待と身体拘束」「人権と意思の尊重」「プライバシー、倫理法令遵守」等の内部研修を行っており、利用者の尊重とプライバシーの確保について理解を深めている。特に言葉かけにおいては、声の大きさ・言葉じりの優しさ・その際の表情等に気を付けるよう、常々職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご利用者様の表情や会話からその思いや状態をしっかりと把握して働きかけの方法も職員間でしっかりと共有して対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、ケアすることを心掛けている。利用者が安心、安全な生活が出来るよう環境整備を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合わせて衣類の調整をしている。髭剃りや整髪など生活リハビリも兼ね自分で行って頂き必要に応じ支援している。衣類のほつれなどの修繕も行い、排泄後の身だしなみなど常に心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃は外注の食事であるが年に数回の行事会、手作りのおやつはご利用者様に喜んでもらえるようなものを調理している。一緒に出来るご利用者様は下膳や、おぼん拭きなどを職員と一緒に実施されている。	食事は外注しており、チルド状態で届けられ、湯煎等で適温にして提供している。夏祭り・敬老会等イベント時の食事はホームで作り、特にお節は法人の理事長・副理事長・管理者等幹部職員手作りの料理が毎年振る舞われている。おやつは手作りのもの他、到来物のフルーツや紫蘇ジュース・干し柿など、季節の物も取り入れるよう心掛けている。	できれば職員1名は入居者と同じ食事を摂り、味や食べ易さなどを確認し、記録して業者に伝えていくことも望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はタブレットに残し把握するようにしている。夜間は白湯の入ったボトルを居室やホールに置き水分補給できるようにしている。毎月15日に体重測定を行い体重の変化にも気をつける。栄養のバランスを考え納豆、卵、もち麦を使ったりしている。食欲が落ちてきた方には嗜好品や高カロリー補助食品で補うこともある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、動ける方は洗面所で、そうでない方はテーブルで行っている。歯ブラシ使用后、舌ブラシを使い舌の汚れも取れるようにしている。義歯の方は夜間外してもらい、消毒し清潔を心掛けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサインを把握してその方に合った声掛けや定時誘導や使用するパットの種類を常に検討しながら支援している。清潔保持とオムツ使用量を常に意識している。	日中は基本的に時間や表情を見て、トイレで排泄できるよう誘導している。排泄が自立している方も半数程度おられる。夜間はポータブルトイレやおむつ使用の方もおり、それぞれの状態に応じて支援している。排泄用品は個々の状態にあった適切なものとなるよう、また経済的負担にも配慮して、常に検討し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作り排便状態を把握している。細めな水分補給を促し昼食にはもち麦を混ぜたものを提供している。又、体操や歩行訓練を兼ねたトイレ誘導を生活の中に組み込んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方はおられるが、自ら入浴を希望される方は殆どいらっしゃらない。利用者の体調や排泄のタイミングを見計らいながら支援している。入浴時は皮膚の状態など全身観察をするようにしている。入浴中は職員との会話を楽しんでリラックスしてもらい気分転換をして頂いている	入浴は基本的に冬は2回、夏は3回実施している。お風呂でない日には陰部洗浄・足浴を行い、清潔保持に努めている。昔の話などで話が弾み、楽しい入浴となるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身状況や生活パターンに応じソファで傾眠されたり居室にて午睡されるなどの環境を整えながら支援している。夜間は入眠を促していける様、照明や室温、職員の声のトーンにも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様それぞれの薬情は常に職員が確認出来るようにしている。セットされた薬のダブルチェックも行っている。本人の体調もしっかり視察し気付きについては、主治医に都度報告、相談、指示受けをしていながら、体調管理に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や残存機能、趣味関心に応じて無理なく取り組んで頂けるよう支援している。季節の行事やお楽しみ会の催し物などは誰でもが気軽に参加出来るようなレクレーションを行うようにしている。又、中庭での外気浴やおやつタイムなどを通して気分転換を図ってもらえる様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症の進行や意欲低下、重度化に伴い、外出の機会は減少してきているが、地域の行事に参加したりホーム内での行事の充実を図っている。	日頃はホーム周辺の散歩や、中庭で歌を歌ったりお茶などを楽しんでいる。今年度は、桜の花見や地域の福祉祭り・初詣などに出かけている。今後はさらに、地域行事への参加や季節の花見など、外出の機会が増えることを期待したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所としてはご利用者様のお金の預かりは行っておらず、本人の希望があった場合は家族と相談しながら少額のお金を持って頂くなど臨機応変の対応を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば職員が仲介し電話で話をしてもらったり定期的に家族から電話をかけてもらったりしている。又、機関紙や職員が手紙を書き状態報告等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう季節の花やレクリエーションでご利用者様と一緒に作成した品、又ひな人形、五月人形、クリスマスツリーなどを飾ったりしている。又安全に生活して頂けるように整理整頓など環境整備にも努めている	リビングは日当たりがよく、壁には午年やひな祭りの飾り付けが施され、明るく楽しい雰囲気となっている。訪問時にはDVDを見ながらラジオ体操をしたり、職員に足湯をしてもらったり、ソファで休んだり、入居者の穏やかな生活が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのいい場所、トイレに近い場所、テレビの良く見える場所など一人一人好まれる場所が違い、出来る限り本人の希望に添う場所で過ごしていただけるよう状況を見極めながら家具などの配置を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状態に合わせ、ベットの位置や高さ、ポータブルトイレの位置、家具の位置、照明など安全に使用でき安心して過ごせるよう話し合い検討しながら個々の居室を作っている。	各居室には大きな収納が設置されており、家具や小物などはあまり置かれていない。家族の写真や誕生日の色紙が飾られ、どの部屋もすっきりと整理整頓されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには入口に表示を行い解りやすくしている。共用部分は整理整頓を心がけている。廊下等には手すり、トイレにはコールを設置して安全面には十分注意している		